２０２２年２月号　No.１７７
令和４年２月９日
発行／沼津東高等学校図書館

２月号　図書館通信

図書館長のつぶやき

春立つ今日の風や解くらむ

今年（令和四年）の立春は二月四日です。昨年は三日でしたが、だいたい立春は四日あたりになります。昔の暦が太陽暦と一致することにちょっと疑問を感じる人もいるかもしれませんが、実は立春は太陽の高さで決まるのです。

・太陽太陰暦

旧暦は月の満ち欠けで暦を作っていたと思われていますが、実は太陽の高さも合わせて決めています。これを「太陽太陰暦」といいます。月は約29．5 日で満ち欠けし、12 ヶ月で約３５４日。太陽の運行と1 年で約11 日の差が生じます。ですから3 年に1 回ていどの割合で13 ヶ月の年を作るのですが、どこにそのひと月分を入れるかを決めるために「二十四節気」を使います。「二十四節気」は太陽の高さで1 年を24 等分して決めます。その一つが「立春」です。なので、立春は現代の太陽暦ではほぼ同じ日になるのですが、旧暦では年によってまちまちでした。

・年内立春

二十四節気の「冬至」が十一月になるように暦を修正するので「立春」は十二月の下旬から、一月の上旬に来ます。理想では一月一日が立春になるといいのですが、旧暦十二月に立春が来ることも約１／２の確率で起きます。十二月に立春が来たことを詠んだのが、「古今集　巻第一春歌上」第一首目の歌です。古今集を開くと一番最初に目にする歌になります。

年の内に春はきにけり
ひととせを こぞとやいはむ ことしとやいはむ（在原元方）

（十二月の内に立春が来てしまった。この１年を今年と呼んだらいいのだろうか、去年と呼んだらいいのだろうか）

明治の歌人正岡子規はこの歌を屁理屈こねたつまらない歌で、こんな歌を載せている古今集はだめだと批判しました。子規の批判の是非はひとまず置いとくとして、これを歌集の第一首目にあえて置いてあることに、当時の人々の暦と季節に関する並々ならぬ関心の高さを感じます。

・東風氷を解く

古今集二首目は次の歌になります。

袖ひちてむすびし水のこほれるを
春立つけふの風やとくらむ（紀貫之）

（夏に袖を濡らしながら掬った谷川の水も、冬になれば凍る。その氷を立春の今日の風が今頃解かしているのだろうか）

一首の中に四季の循環を読み込む壮大な歌となっています。

人は時の流れに「暦」という目盛りをうつことで相対化しました。「時間」とは、「月日」という形ではじめて意識されるのです。いうなれば、暦が時間を、そして季節を作るのです。（どんなにぽかぽかと暖かい日があってもカレンダーが十一月を示していれば、それは「小春日和」であってやはり「秋」ですよね。）

このように考えてみれば、「立春」とは単なる暦のうえのものではなく、循環する時間の始まりとなる特別な日なのです。なればこそ、古今集の時代の人は、「年内立春」という冬でも春でもない暦の空隙(くうげき)の奥に、「時」の底知れぬ深さを感じたのではないでしょうか。

ちなみに七十二候では、立春を「東風解氷」といいます。（あれ？）

臨時休館のお知らせ

3月2日(水)　蔵書点検のため休館
3月3日(木)～3月8日(火)
3月15日(火)
高校入学者選抜試験・合格発表のため、図書館・自習室は休館になります。

日本を代表する傑作タイトル！ 芥川賞&直木賞

受賞作発表

★三作品とも配架済みです。

第166回芥川賞
『ﾌﾞﾗｯｸﾎﾞｯｸｽ』講談社
砂川 文次/著

第166回直木賞
『塞王の楯』講談社
今村 翔吾/著
『黒牢城』角川書店
米澤 穂信/著

新着本の紹介

書　名		著者名	請求番号	出版社
000 総 記				
「読む」だけで終わりにしない読書術		本要約ﾁｬﾝﾈﾙ	019.1 ﾎﾝ	ｱｽｺﾑ
近藤誠一全集 1 対談 1		近藤 誠一	081.6 ｺﾝ 1	かまくら春秋社
100 哲学・心理学				
食べることの哲学	2022年共通ﾃｽﾄ出典	檜垣 立哉	114.2 ﾋｶﾞ	世界思想社
ｱﾄﾞﾗｰ心理学見るだけﾉｰﾄ「人生がうまくいかない」が100%解決する		小倉 広	140 ｵｸﾞ	宝島社
ｱﾝｶﾞｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ見るだけﾉｰﾄ もう怒りで失敗しない!		安藤 俊介	141.6 ｱﾝ	宝島社
200歴史・地理				
人びとのなかの冷戦世界 想像が現実となるとき	大佛次郎論壇賞受賞	益田 肇	209.7 ﾏｽ	岩波書店
地形で読む日本 都・城・町は、なぜそこにできたのか		金田 章裕	210 ｷﾝ	日経BPﾏｰｹﾃｨﾝｸ
文化地理学講義 〈地理〉の誕生からﾎﾟｽﾄ人間中心主義へ		森 正人	290.1 ﾓﾘ	新曜社
300 社会科学				
社会保険労務士になるには	2022年共通ﾃｽﾄ出典	池田 直子	366 ｲｹ 63	ぺりかん社
食べるとはどういうことか 世界の見方が変わる三つの質問		藤原 辰史	383.8 ﾌｼﾞ	農山漁村文化協会
400 自然科学				
若き研究者へ贈る言葉		武田科学振興財団	490.4 ﾀｹ	武田科学振興財団
最強脳 『ｽﾏﾎ脳』ﾊﾝｾﾝ先生の特別授業		ｱﾝﾃﾞｼｭ・ﾊﾝｾﾝ	491.3 ﾊﾝ	新潮社
保健所の「ｺﾛﾅ戦記」TOKYO2020-2021		関 なおみ	498.6 ｾｷ	光文社
500 技 術				
FOOD ANATOMY食の解剖図鑑		ｼﾞｭﾘｱ・ﾛｽﾏﾝ	596 ﾛｽ	大和書房
700 芸 術				
うろんな客		ｴﾄﾞﾜｰﾄﾞ・ｺﾞｰﾘｰ	726.6 ｺﾞｰ	河出書房新社
800 言 語				
医系小論文頻出ﾃｰﾏ20 書き方のｺﾂがよくわかる 改訂版		神尾 雄一郎	816.5 ｶﾐ	角川書店
大学入試小論文の完全ﾈﾀ本 〈医歯薬系・看護・医療系〉 改訂版		神崎 史彦	816.5 ｶﾝ	文英堂
大学入試小論文の完全ﾈﾀ本 〈人文・教育系〉 改訂版		神崎 史彦	816.5 ｶﾝ	文英堂
大学入試小論文の完全ﾈﾀ本 〈自然科学系〉 改訂版		神崎 史彦	816.5 ｶﾝ	文英堂
大学入試小論文の完全ﾈﾀ本 〈社会科学系〉 改訂版		神崎 史彦	816.5 ｶﾝ	文英堂
900 文 学				
現代俳句歳時記　春・夏・秋・冬・新年		角川 春樹	911.3 ｶﾄﾞ 1～5	角川書店
同志少女よ、敵を撃て	本屋大賞ﾉﾐﾈｰﾄ作品	逢坂 冬馬	913.6 ｱｲ	早川書房
残月記	本屋大賞ﾉﾐﾈｰﾄ作品	小田 雅久仁	913.6 ｵﾀﾞ	双葉社
愚かな薔薇		恩田 陸	913.6 ｵﾝ	徳間書店
ｼﾍﾞﾘｱのﾊﾞｲｵﾘﾝ ｺﾑｿﾓﾘｽｸ第二収容所の奇跡		窪田 由佳子	913.6 ｸﾎﾞ	地湧社
ﾌﾞﾗｯｸﾎﾞｯｸｽ	第166回 芥川賞受賞	砂川 文次	913.6 ｽﾅ	講談社
真夜中のﾏﾘｵﾈｯﾄ		知念 実希人	913.6 ﾁﾈ	集英社
現代生活独習ﾉｰﾄ		津村 記久子	913.6 ﾂﾑ	講談社
ﾋﾎﾞｸﾗﾃｽの試練		中山 七里	913.6 ﾅｶ	祥伝社
海をあげる		上間 陽子	914.6 ｳｴ	筑摩書房

3年生のみなさんへ

卒業式前に、本の返却をお願いします。ロッカーに入れたままの本や、部室に置き忘れている本も気がついたら、図書館へ返却願います。

全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本 2022年本屋大賞 本屋大賞

ノミネート作品発表

『赤と青とエスキース』青山美智子◆PHP研究所
『硝子の塔の殺人』知念実希人◆実業之日本社
『黒牢城』米澤穂信◆KADOKAWA
『残月記』小田雅久仁◆双葉社
『スモールワールズ』一穂ミチ◆講談社
『正欲』朝井リョウ◆新潮社
『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬◆早川書房
『星を掬う』町田そのこ◆中央公論新社
『夜が明ける』西加奈子◆新潮社
『六人の嘘つきな大学生』浅倉秋成◆KADOKAWA

書籍売上高

全作品配架予定